西堂（にしのどう）・井原（いわら）の文化財（ぶんかざい）

福岡雷山ゴルフ倶楽部建設に伴う埋蔵文化財調査の速報２

１　９　９　６

前原市教育委員会

Ⅰ. はじめに

福岡雷山ゴルフ倶楽部の建設に伴い埋蔵文化財の発掘調査が始まったのは平成５年９月のことでした。その発掘調査も今年度をもちましてすべてが終了しました。今年度まで、井原尾花屋敷古墳群をはじめとする多くの遺跡を調査してきました。調査された遺跡はそのほとんどが古墳でしたが住居跡や掘立柱建物跡、火葬された墓などもありました。なかでも小石ばかりを使用せず、板状の比較的大きな石を中心に据えてからその周りに小石を組んで閉塞石とする古墳が主であった井原尾花屋敷古墳群の調査は印象に残るものでした。

ところが、残念なことに井原尾花屋敷古墳群をはじめ数多くの古墳はすでに盗掘を受け、破壊されており、遺存状況は良くありませんでした。しかしながら、調査で得られた成果はかってこの地に住んでいた人々の生活の一端を明らかにするための貴重な資料となります。今後は出土した数々の遺物を復元・整理し、発掘調査の成果をまとめた報告書の作成を行う予定です。

また、ゴルフ場の用地内からは多くの遺跡が発見されましたが、盛土施工や設計変更などにより可能な限り現地に保存することができました。とりわけ前方後円墳を含む20基以上の古墳で構成される井原トリノス古墳群を施工範囲から除外していただき、現状保存していただいたことの意味は非常に大きいといえます。

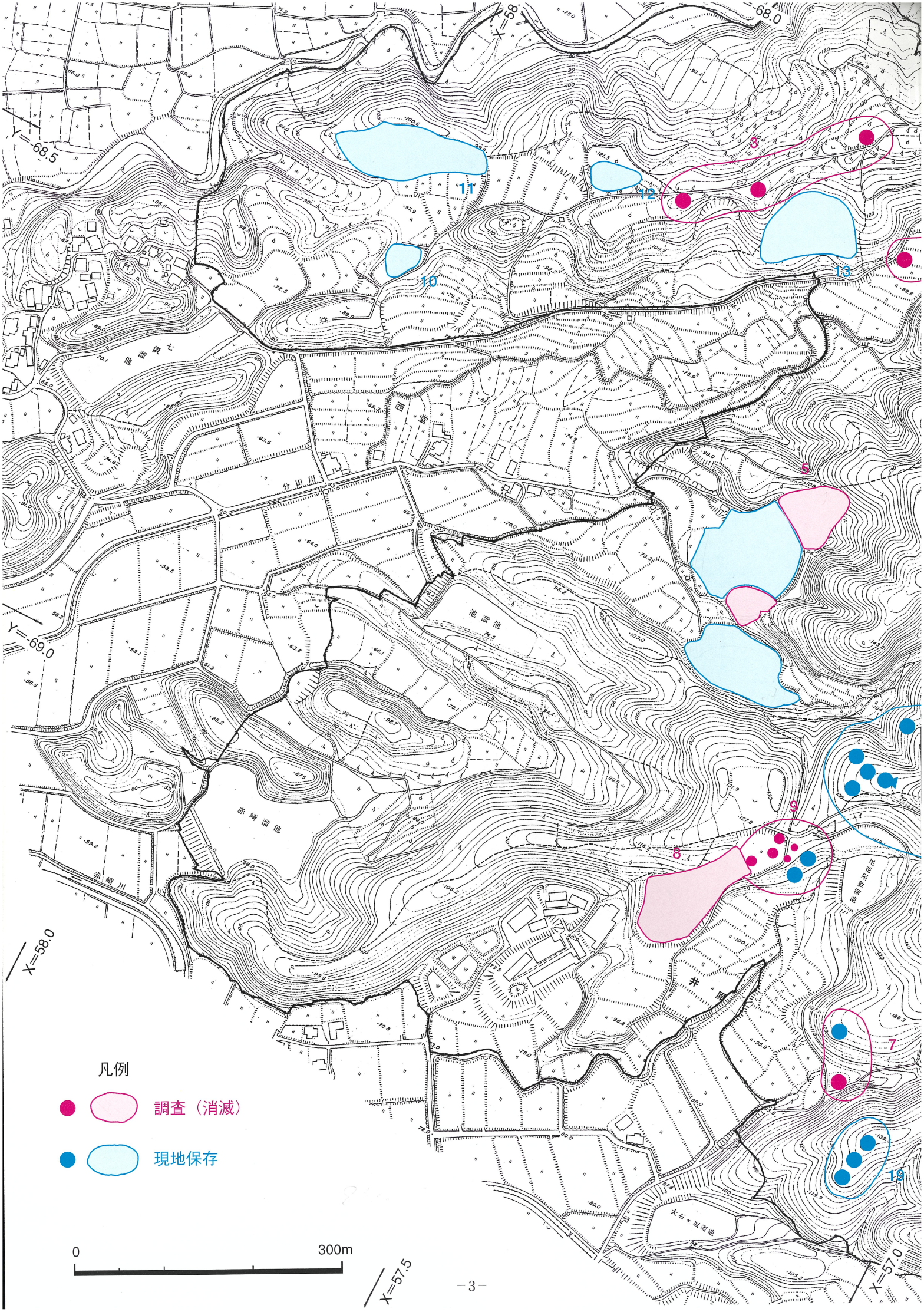
末筆となりましたが、施工主である株式会社ラインビルディングにおかれましては、文化財保護の本旨を充分にご理解いただき、多大なご協力をいただきました。また、清水建設株式会社をはじめとする施工業者の方々には、発掘調査にあたり多くの便宜を図っていただきました。ここに記して深謝いたします。

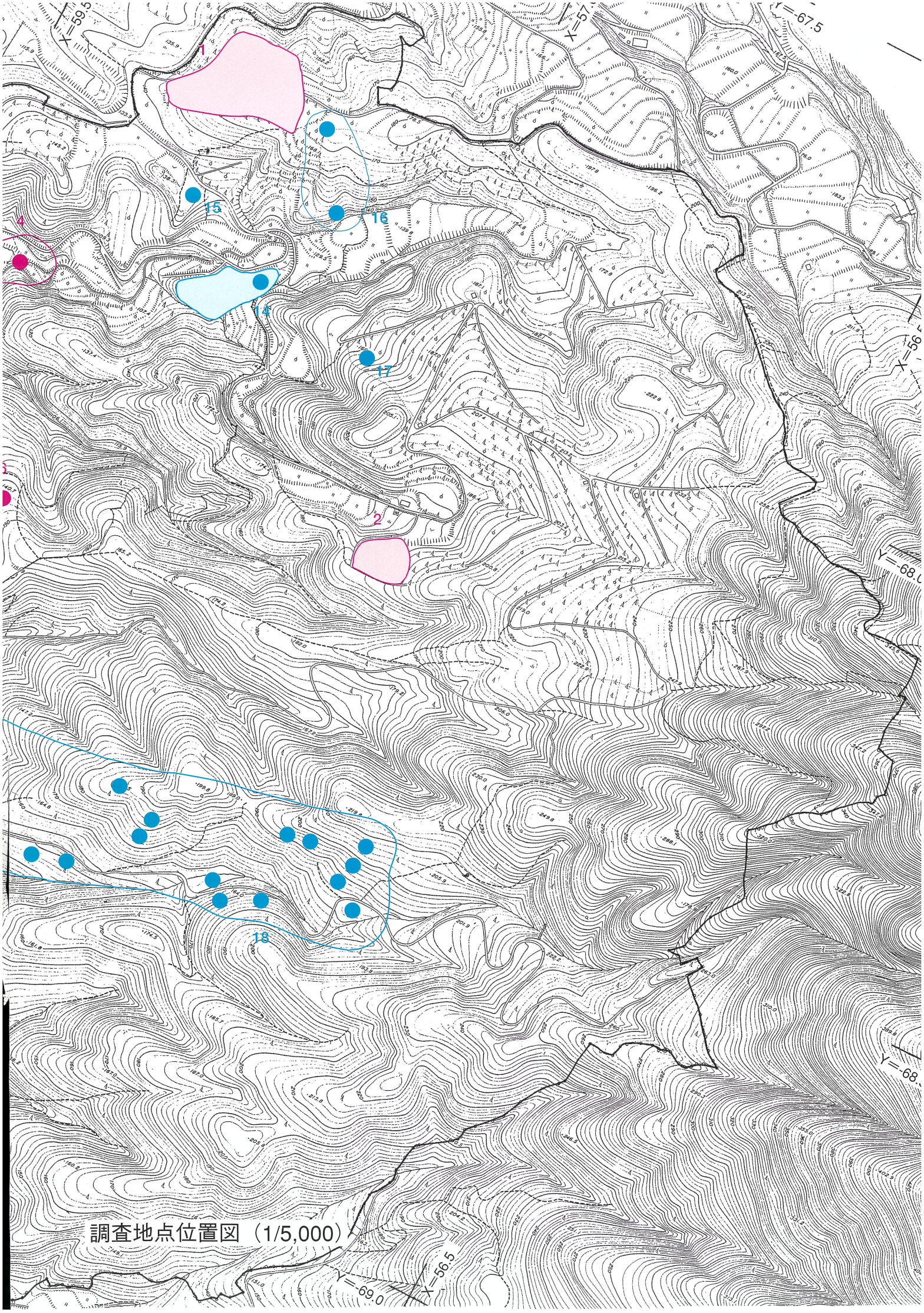
本年度の発掘調査に関わる組織は以下のとおりである。

施工主	株式会社ラインビルディング	
調査主体	前原市教育委員会	
総括	教育長	樗木昭夫
	教育部長	中原直国
	文化課長	井上尚
総括・調査	文化課文化財係長	川村博
庶務	同 文化振興係長	宮本洋子
調査	同 文化財係主事	角浩行・瓜生秀文

Tab. 1　福岡雷山ゴルフ倶楽部用地内埋蔵文化財調査概要一覧

番　号	遺　跡　名	遺　　跡　　の　　概　　要
1	川原フスボリ遺跡	土坑、溝、ピット、遺物包含層などを検出。土師器、石器が包含層から出土。時期は5世紀～近代。
2	川原田代遺跡	土坑、ピット、遺物包含層などを検出。須恵器、土師器、石器が出土。時期は縄文時代、奈良時代。
3	西堂赤井手古墳群	円墳3基を検出。須恵器、土師器、鉄器が出土。 時期は古墳時代後期（6世紀中頃～後半）
4	西堂田代古墳群Ｂ群	円墳2基を検出。須恵器、土師器、鉄器、耳環、玉類が出土。時期は古墳時代後期（6世紀後半）
5	西堂正永遺跡	Ａ地区　住居跡、炉跡、土坑、火葬土壙、ピット、遺物包含層などを検出。須恵器、土師器、鉄器、石器が出土。 Ｂ地区　土坑、溝、ピット、遺物包含層などを検出。須恵器、土師器、石器が出土。 時期は古墳時代～近世。一部現状保存。
6	西堂田口古墳	円墳。須恵器、土師器、鉄器片が出土。 時期は古墳時代後期（6世紀後半～末？）
7	井原清太夫古墳群	円墳2基（うち1基は現状保存のため未調査） 須恵器、土師器、陶器、磁器、鉄器が出土。 時期は古墳時代後期（6世紀後半）
8	井原尾花屋敷遺跡	掘立柱建物、土壙墓、土坑、ピットなど検出。 須恵器片、土師器片が出土。時期は不明。
9	井原尾花屋敷古墳群	円墳7基（うち2基は現状保存のため未調査） 須恵器、土師器、陶器、磁器、鉄器、耳環、石器が出土。 時期は古墳時代後期（6世紀中頃～末？）
10	西堂スケ遺跡	遺物包含層を検出。土師器片が出土。 時期は古墳時代以降。現状保存のため未調査。
11	末永備中遺跡Ａ地区	遺物包含層を検出。土師器片、磁器片が出土。 時期は古墳時代以降。現状保存のため未調査。
12	末永備中遺跡Ｂ地区	火葬土壙、遺物包含層を検出。土師器片が出土。 時期は古墳時代～中世。現状保存のため未調査。
13	西堂赤井手遺跡	炭焼窯、遺物包含層を検出。土師器片が出土。 時期は古墳時代以降。現状保存のため未調査。
14	川原フスボリ遺跡 川原フスボリ古墳群Ｂ群	古墳？、遺物包含層を検出。須恵器片、土師器片が出土。 時期は古墳時代以降。現状保存のため未調査。
15	西堂田代古墳Ａ	円墳。現状保存のため未調査。
16	川原フスボリ古墳群Ａ群	円墳2基。現状保存のため未調査。
17	川原田代古墳	円墳。現状保存のため未調査。
18	井原トリノス古墳群	前方後円墳、円墳（計20基＋α）現状保存のため未調査。
19	井原古野古墳群	円墳3基。現状保存のため未調査


X=58.0
Y=-68.5
Y=-69.0
X=58.0
X=57.5
X=57.0
9
11
12
13
10
5
6
8
7
19
凡例
調査（消滅）
現地保存
0
300m



調査地点位置図（1/5,000）

Ⅱ. 調 査 の 内 容

1. 調 査 の 概 要

調査は事前の現地踏査によって得られた資料をもとに、遺跡が存在する可能性の高い地点の試掘調査から取りかかりました。試掘調査はバックホーにより少しずつ地表面を掘り下げながら、必要に応じて作業員を投入し遺構、遺物の有無を確認しました。また、工事側の要望で基本的には工区単位で発掘調査を行っています。

発掘調査は基本的には次のような手順で進めてゆきました。まず、調査地点の現況の地形測量を行い、その後遺跡が確認された深さまでバックホーで掘り下げ、作業員を投入し遺構の検出、掘り下げを行いました。これと並行して必要に応じて個々の遺構について実測図を作成し、写真撮影を

空からみた尾花屋敷古墳群

行いました。遺構の掘り下げが完了した後に、遺跡全体の実測図を作成し、全体写真を撮影して発掘調査を終了しました。ただし、盛土施工などの設計変更により現地保存が可能な遺構に関しては試掘調査のみ行っています。

2．尾花屋敷１号墳

１号墳は古墳群の北端に位置し、標高は約120mを測ります。現況は水田でした。墳丘は水田の造成により削平されており、全く残っていませんでした。このため事前の現地踏査時には、その存在を予想できませんでした。

主体部（遺体を埋葬した施設）は横穴式石室ですが、玄室（遺体を埋葬した部屋）、羨道（石室の入り口の通路部）ともに上部が破壊されており、１段目の石が残されているだけでした。奥壁も石材が抜き取られ、どこかへ持ち去られていました。石室の規模は全長5.6m、玄室の長さ3.2m、幅1.8m、羨道の長さ2.4m、幅1.1mでした。石室内は床面まで荒らされており、敷石もほとんど残されていませんでした。ただ、羨道の入口には閉塞石（石室の入口を塞いだ石）の一部が残されていました。

遺物は石室内から須恵器の破片が数点出土しただけでした。古墳の築造時期は決め手となる出土遺物がないため、明確にできませんが、６世紀後半～末であると考えられます。

尾花屋敷古墳群遠景

尾花屋敷１号墳石室

尾花屋敷１号墳石室（羨道部より）

尾花屋敷１号墳石室（奥壁側より）

3．尾花屋敷２号墳

２号墳は古墳群の中央部に位置し、標高は123 mを測ります。円墳であり、墳丘の規模は約11mと推定されます。古墳群のなかで最も規模の大きなもので、墳丘もよく残っていたため、踏査の段階で逸早く古墳であることが判明していました。

主体部は大型の横穴式石室で全長6.0 m、羨道の長さ2.7 m、幅約1.0 m、玄室の長さ3.3 m、幅1.9 mでした。石室の入口は南西に向いていました。墳丘は比較的によく残っていましたが、内部は残念ながら盗掘を受けており、石室内から須恵器片が若干出土したにすぎません。しかし、羨道部には追葬の際、修復したと考えられる床面を検出しています。このことから、２号墳で追葬が行われたことがわかります。そして、閉塞石に比較的大きな板状の石を使用していることも２号墳の特徴のひとつです。

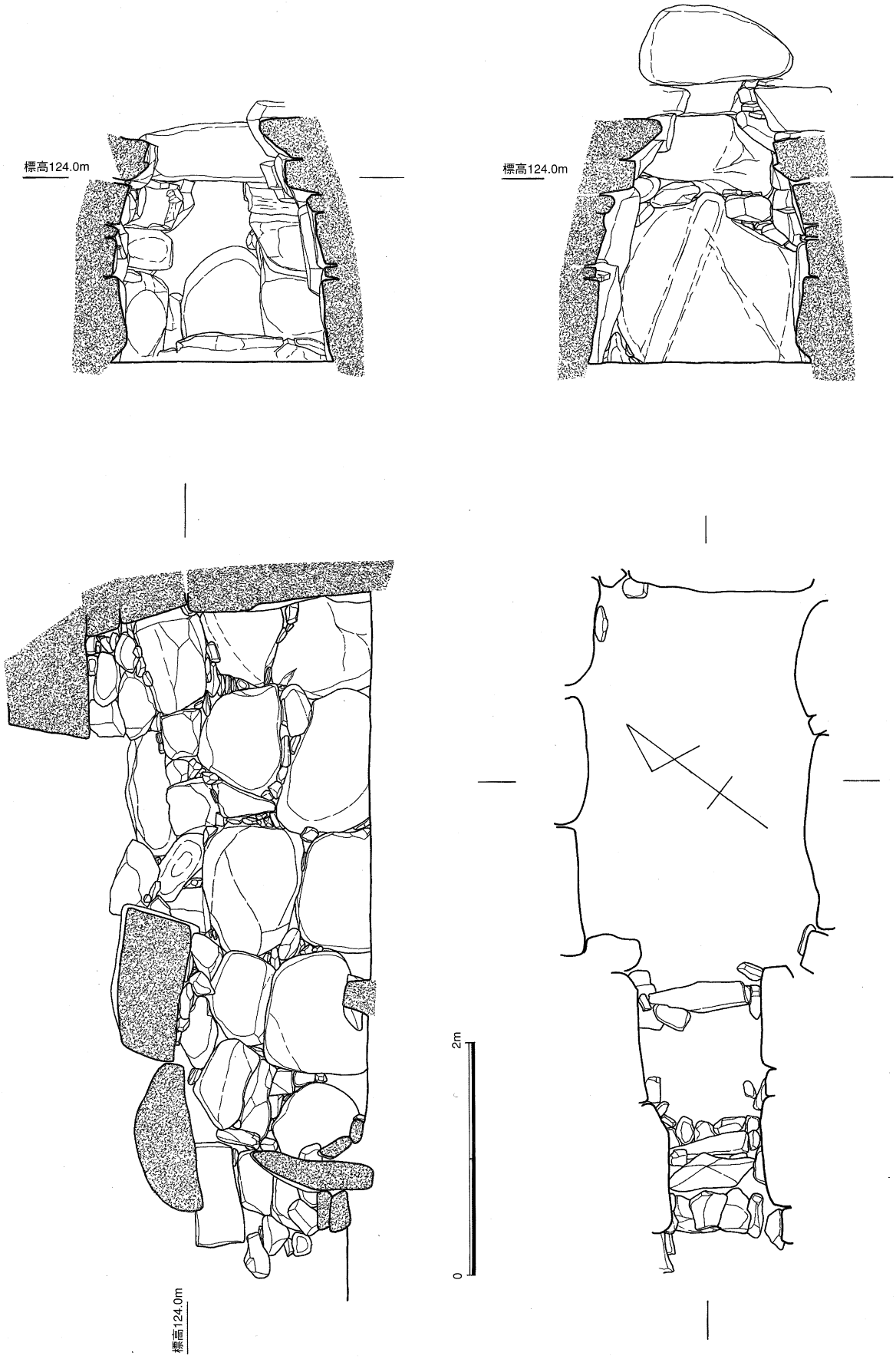
つぎに、土層観察で隣接する７号墳の周溝の埋土の上に２号墳の墳丘が築かれていることが確認でき、７号墳より２号墳のほうが新しいことがわかります。なお、７号墳の石室内から出土した遺物が６世紀後半のものと考えられることから、２号墳の築造年代は６世紀後半～末と考えたい。

尾花屋敷２号墳石室羨道部

尾花屋敷２号墳

空からみた尾花屋敷２号墳

尾花屋敷２号墳



尾花屋敷２号墳石室実測図（1/50）

4．尾花屋敷３号墳

３号墳は丘陵の頂部に位置し、標高は約124mを測ります。現況は雑木林でした。古墳は直径約９mの円墳です。墳丘は頂部を削平されおり、南側も道路により削られていました。

主体部は横穴式石室で全長2.9m、玄室の長さ2.0m、幅1.8m、羨道の長さ0.9m、幅0.7mでした。石室は上部が破壊されていましたが、敷石は比較的良く残っており、しかも２面確認されました。このことから２回の埋葬が行なわれたことがわかります。

遺物は墳丘内から須恵器の杯が、石室内から須恵器の高杯、提瓶、土師器の提瓶、壷、耳環が出土しました。古墳の築造時期は６世紀後半と考えられます。

尾花屋敷３号墳石室

石室遺物出土状況

尾花屋敷３号墳

5．尾花屋敷６号墳

６号墳は丘陵の頂部からやや下った斜面に位置し、標高は約122mを測ります。現況は雑木林でした。古墳は直径約６mの円墳です。墳丘は頂部を削平されていましたが、周溝は良く残っていました。また、墳丘内からは土止めのためと考えられる列石の一部が見つかりました。このことから規模は小さいながらも、ていねいな造り方をした古墳であることがわかりました。

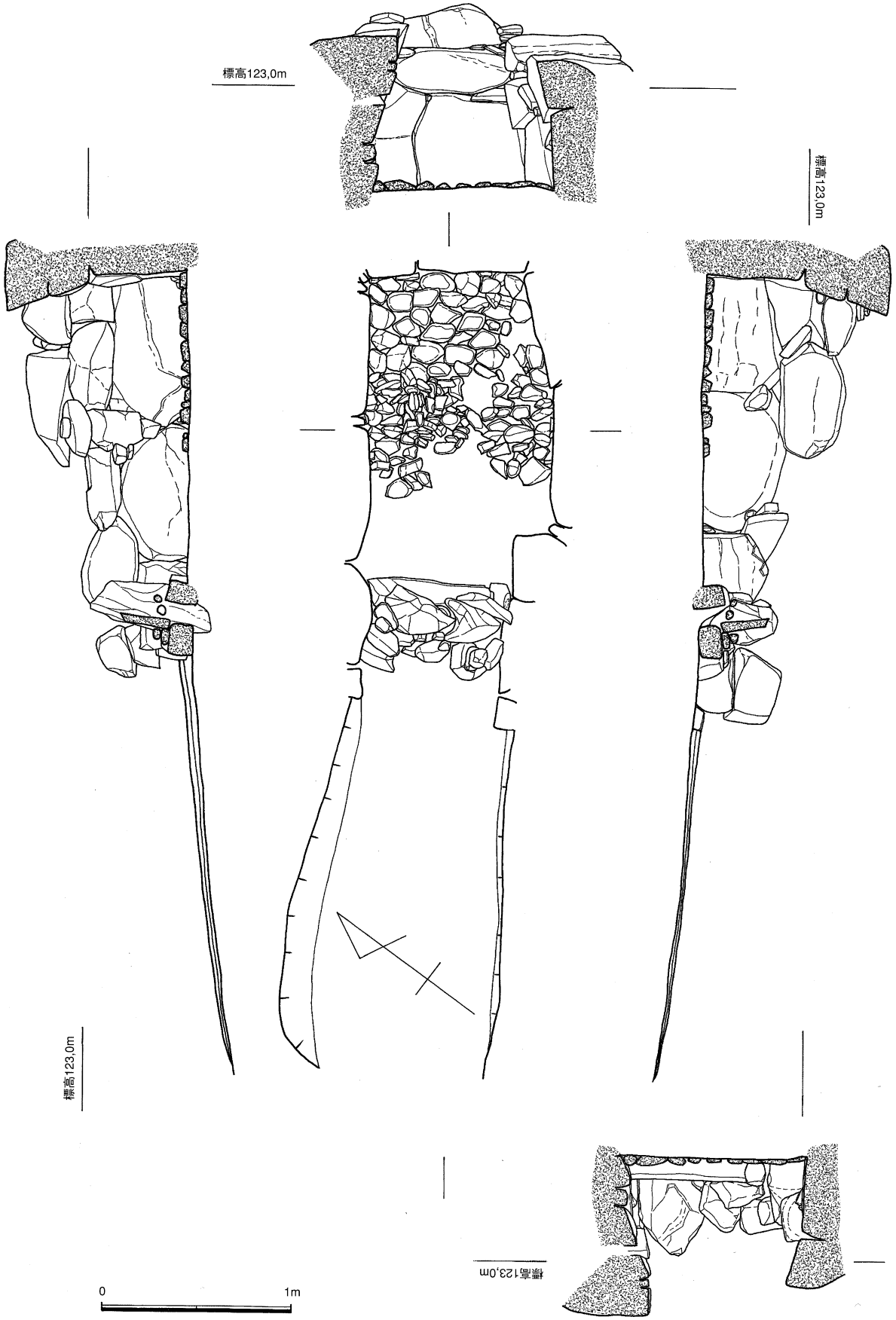
主体部は小型の横穴式石室で全長2.4m、玄室の長さ1.6m、幅1.0m、羨道の長さ0.8m、幅0.7mでした。石室は上部が破壊されており、内部も盗掘を受けていました。

しかし、玄室の中央から奥には敷石が残っており、羨道部には閉塞石の一部が残されていました。閉塞石には立石を使っており、２号墳でも同じ方法が見られました。

遺物はほとんど出土しておらず、石室内から須恵器の破片が出土しただけでした。古墳の築造時期は６世紀末～７世紀初めではないかと考えられます。

尾花屋敷６号墳石室

尾花屋敷６号墳



尾花屋敷 6 号墳石室実測図（1/30）

6．尾花屋敷７号墳

２号墳に隣接する古墳で、小型の方墳です。墳丘は削平によりほとんど残っていませんでした。しかし周溝の一部が確認され、これから復元すると一辺が約６ｍとなります。

主体部は超小型の横穴式石室で長さ1.5ｍ、幅0.6ｍです。羨道は付設されておらず、竪穴式石室のようです。しかし、片方の小口が立石でもう一方は石組で塞いだような造りになっていることから、横穴式石室であることがわかりました。

遺物は石室内から須恵器の提瓶が出土しました。古墳の築造時期は６世紀後半であると考えられます。

尾花屋敷７号墳石室

尾花屋敷７号墳

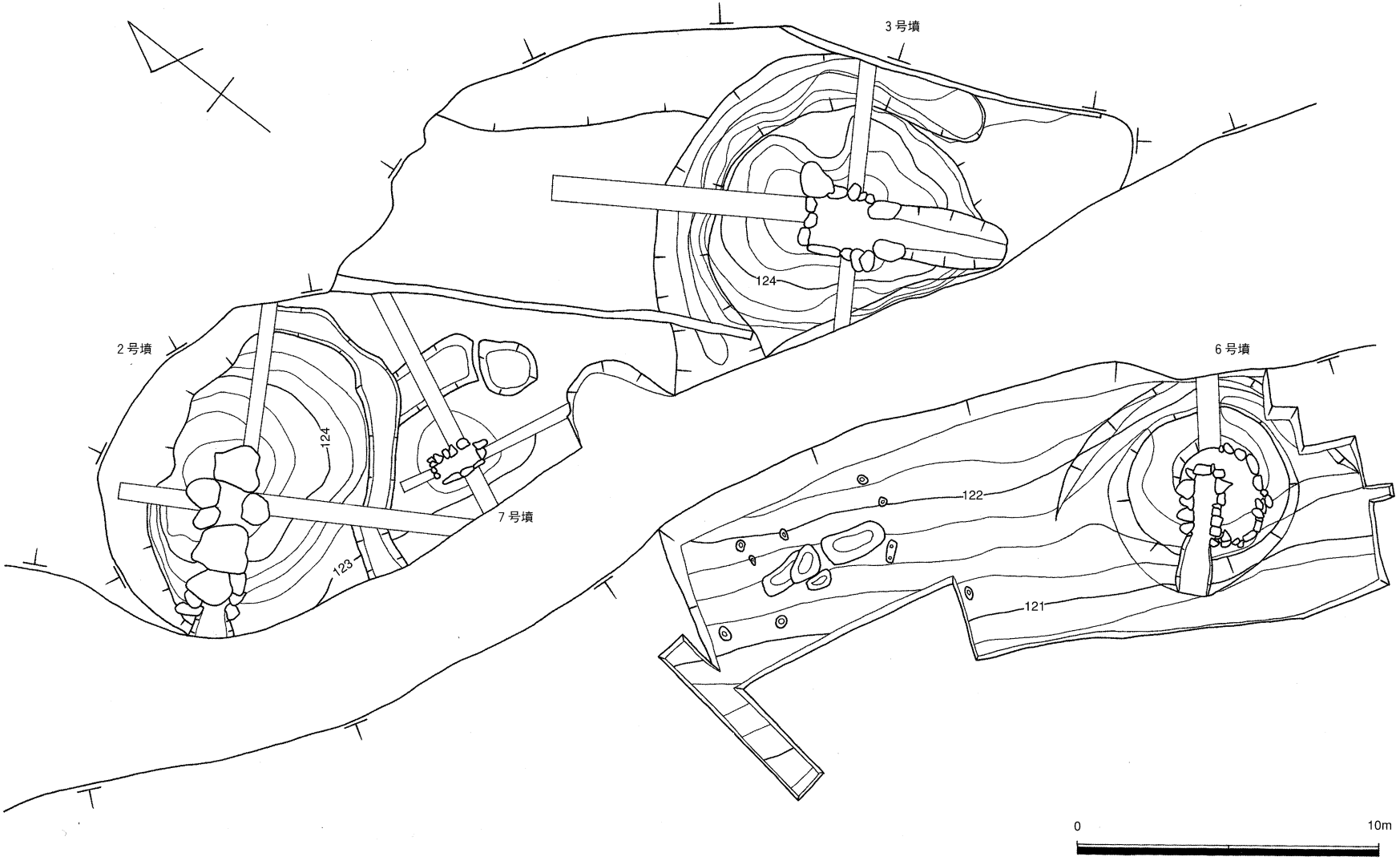
Ⅲ. おわりに

福岡雷山ゴルフ倶楽部は井原山山麓の丘陵地帯に位置し、その総面積は140haにもおよびます。この広大なゴルフ場開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査も、開始から約２年半を経てすべて終了しました。この間、川原フスボリ遺跡・西堂赤井手古墳群をはじめとする数多くの遺跡を調査してきました。調査した遺跡のほとんどが古墳でしたが、なかには住居跡や掘立柱建物、火葬土壙などもありました。

今年度に調査した井原尾花屋敷古墳群も古墳を中心とする遺跡群でした。築造方法等の基本的な部分に関しては他の古墳と同じでしたが、閉塞石に比較的大きな板状の石材を使用することなどは当地を治めていた支配者の古墳築造にたいするこだわりであったかもしれません。古墳時代にいきたその当時の人々の息吹が感じられる発掘調査でした。

ところで、発掘調査の期間中、施工主である株式会社ラインビルディングのご協力により、多くの遺跡を保存していただきました。しかし、残念ながらすべての遺跡を現地に保存することはできません。発掘調査を実施した後、工事によって破壊され、記録保存というかたちをとらざるをえなかった遺跡も数多くあります。これらの遺跡は我々の祖先の生活を明らかにしてくれる貴重な遺産であり、その記録は永く後世に伝えてゆかなければなりません。みなさまには今後とも文化財の保護について、より一層のご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

尾花屋敷古墳群



尾花屋敷古墳群平板測量図（1/200）

報告書抄録

フリガナ	ニシノドウ・イワラノブンカザイ
書名	西堂・井原の文化財
副書名	福岡雷山ゴルフ倶楽部建設に伴う埋蔵文化財調査の速報2
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	瓜生秀文
編集機関	前原市教育委員会
所在地	福岡県前原市大字前原623
発行年月日	西暦　1996年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
福岡雷山ゴルフ倶楽部用地内遺跡群	前原市大字井原・西堂・川原			33°31′00″	130°15′39″	1993.9.1 ～1995.4.30		ゴルフ場建設に伴う緊急調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
井原尾花屋敷古墳群	古墳群	古墳時代	円墳　4 方墳　1	須恵器、土師器、陶器、磁器、鉄器、石器、玉類、耳環など	

西堂・井原の文化財

前原市文化財調査報告書

1996年3月31日

発行　前原市教育委員会

印刷　隆文堂印刷株式会社